

ただいまご紹介いただきました生駒市長の小紫雅史です。

皆様、本日はご入学誠におめでとうございます。

奈良先端科学技術大学院大学は、研究・教育の双方で日本トップレベル、世界的にも多くの実績をあげ、国内外で高い評価を得ており、日本が世界に誇るアカデミアです。

先を見通しにくいこの時代を生き抜くうえで、科学技術は未来を照らす光となります。入学生の皆様におかれては、様々な国や地域から優秀な方々が集まる環境に身を置き、研究力を身につけ、素晴らしい業績をあげられるよう充実した生活を送ってください。

2025年の大阪・関西万博は記憶に新しいところですが、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催され、奈良先端大の研究者や学生の皆さんも様々な形でご活躍されました。生駒市も奈良先端大の研究室と協働し、VR技術を活かした生駒山観光のPR動画を作成しました。ブースの来訪者には宝山寺や生駒山上遊園地などの疑似体験を通して大変喜んでいただき、その結果、生駒市を訪問する外国人が3倍に増加しました。

万博という非日常の空間で提示された問いや技術は、その先の日常へと引き継がれていくべきものと考えますが、その日常の舞台の一つがこの生駒市です。先生や学生の方々が、行政、市民と同じテーブルにつき、未来の暮らしを言葉にし、試し、確かめる。最先端の知が社会と出会い、生駒市という地域をフィールドとした協創が積み重ねられています。

そして奈良先端大の北側は新たに学研高山地区第2工区としての開発計画が進められており、奈良先端大や研究開発型産業施設との連携を図りながら、文化や技術を世界に発信するとともに、よりよい未来に貢献する企業や研究者を育む次世代のまちづくりを目指しています。奈良先端大は昨年度から国のプロジェクト「J-PEAKS」に採択され、今後東南アジアからはじめ留学生の倍増が計画されていますが、この機会を相互に活かし、学研高山地区第2工区でも東南アジア関連企業の誘致を推進するなど、生駒市がASEANとのゲートウェイとなるような展開を考えています。生駒市がポスト万博シティとして研究の実装、イノベーションの創出ができる国際的な学術研究都市を形成していくことで、生駒市はじめ、奈良県、日本、そして世界の発展につながるものと信じています。

また生駒市は、奈良先端大が推進する研究シーズの事業化、スタートアップの創出を支援すべく「いこま産学官アクセラレーションプログラム（略してI-SAP）」を実施しています。研究の社会実装を目指すことで大きなインパクトを起こし、様々な地域課題を解決する。その姿勢を生駒市も応援しますので、ぜひ起業家精神・アントレプレナーシップを持ってご自身の研究をより良い社会づくりに活かしてください。

新入生の皆さんには、ぜひ研究室の中だけでなく、キャンパスの外へも足を運んでいただきたいと思います。そんな皆さんの挑戦を、生駒市は受け止め、ともに考え、ともに未来を描くパートナーでありたいと考えています。

最後になりますが、生駒市では、皆様とご家族が、毎日の生活を豊かに幸せにするための色々なお手伝いをしています。日常生活などで困り事があれば、是非遠慮なくご連絡く

ださい。

奈良先端大で過ごす皆様の時間が素晴らしい実りあるものになるように、心からお祈りを申し上げます。

本日は、誠におめでとうございます。

令和8年4月6日
生駒市長 小紫 雅史